

経済・金融フラッシュ

No.07-175 2008/3/26

貿易統計 08年2月～米国向け以外の輸出は好調維持

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

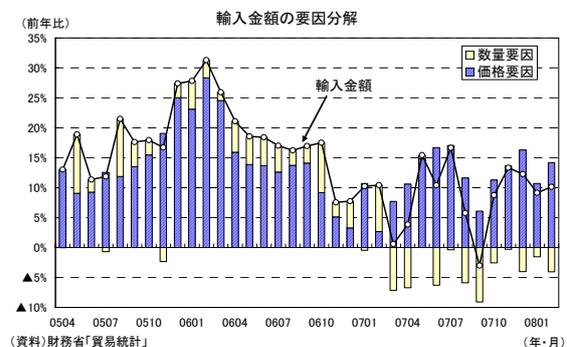
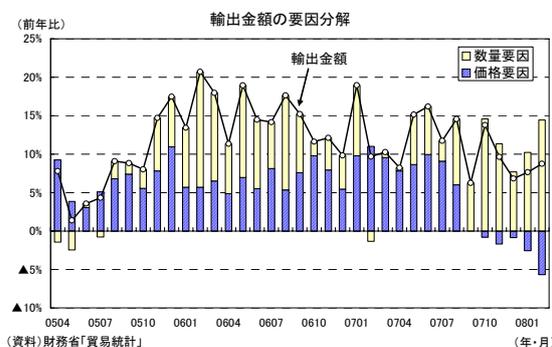
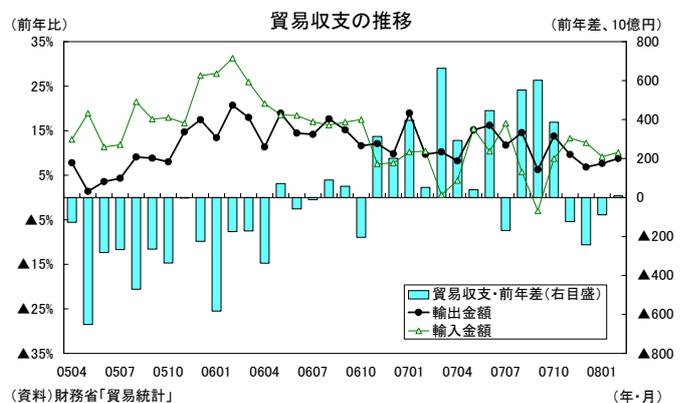
1. 貿易収支は4ヵ月ぶりに改善

財務省が3月26日に公表した貿易統計によると、08年2月の貿易黒字は9,700億円（前年比0.9%）となり、4ヵ月ぶりに前年よりも改善したが、事前の市場予想（ロイター集計：11,464億円、当社予想は10,480億円）は大きく下回った。

輸出価格が前年比▲5.3%（1月：同▲2.4%）と6ヵ月連続でマイナスとなる中、輸出数量の伸び前年比14.8%（1月：同10.4%）と高まったため、輸出金額は前年比8.7%（1月：同7.7%）となった。

輸入数量は前年比▲3.8%（1月：同▲1.5%）とマイナス幅が拡大したが、原油高の影響で輸入価格が前年比14.5%（1月：同10.8%）と伸びが大きく高まったため、輸入金額は前年比10.1%（1月：同9.2%）と2ヵ月ぶりに二桁の伸びとなった。

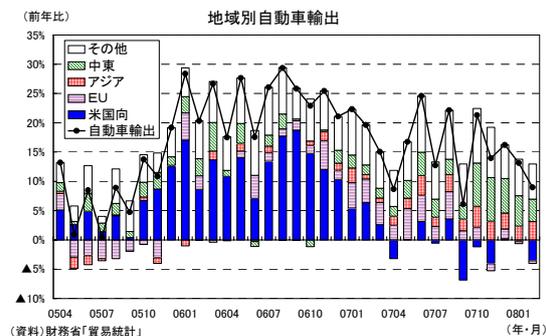
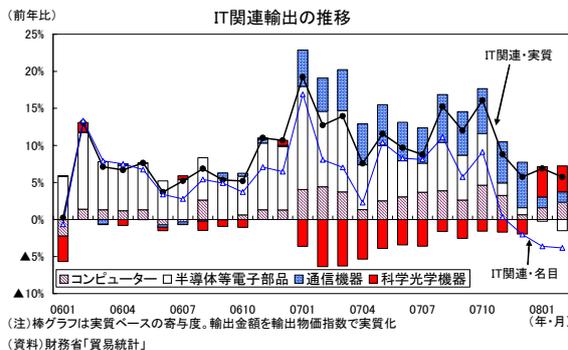
貿易収支は前年よりも改善したものの、市場予想は5ヵ月連続で下回った。貿易収支の実績値が市場予想を下回り続けると、貿易収支は縮小に向かう傾向があることには留意が必要だろう（詳細はweeklyエコノミストレター2008.3.21号参照）。



2. 米国向け以外の輸出は好調を維持

輸出の内訳を見ると、IT 関連品目では、科学光学機器（名目・前年比 13.8%）、通信機（同 9.2%）、コンピューター・部分品（同 0.9%）は増加したが、半導体電子部品（同▲13.0%）、コンピューター（同▲8.5%）は大幅な減少となり、全体では前年比▲3.8%となった。IT 関連品目は価格の大幅な下落が続いているため、実質では増加を維持しているが伸び率は鈍化しており、名目ベースでは 3 ヶ月連続で減少となった。国内の電子部品・デバイスの在庫調整はいったん終了したと見られていたが、IT 関連品目の輸出に変調の兆しが見られることは先行きの懸念材料である。

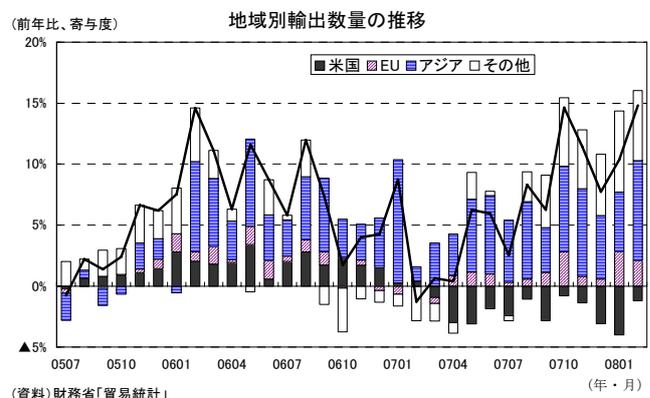
自動車輸出は前年比 9.0%（1 月：同 13.1%）と 5 ヶ月ぶりに一桁の伸びにとどまった。アジア向け（前年比 46.2%）、中東向け（同 41.2%）、ロシア向け（同 31.9%）は高い伸びを維持したが、米国向け（同▲8.9%）、EU 向け（同▲2.8%）が全体を大きく押し下げた。



輸出数量を地域別に見ると、米国向けが前年比▲5.0%（1 月：同▲17.8%）とマイナス幅が縮小し、EU 向け（前年比 15.7%）、アジア向け（前年比 16.8%）も高い伸びとなった。

中東、ロシアなど、主要 3 地域（米国、EU、アジア）以外の「その他地域」向け輸出は依然として高い伸びを続けており、08 年 2 月の輸出数量全体の伸び率 14.8%に対する寄与度は 5.7%（当研究所による試算値、1 月は 6.6%）となった。

先行きについては、米国経済の急減速が世界経済の成長鈍化につながり、日本の輸出も減速に向かうと見られる。しかし、現時点ではそうした動きは顕在化しておらず、米国向けの落ち込みはそれ以外の地域向けの好調で十分にカバーされている。



(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)